

エコトーン再生計画

新しいにぎわいが創出されつつある現在の中川運河。
 我々は、新たな到達点を更なる到達点として、更なるにぎわいの創出をめざす。
 “更なるにぎわい”とは、人のみによるにぎわいではなく、
 多様な生態系による生物圏全体によるにぎわいをあらわす。
 多様な生態系を取り戻すべく、
 笈瀬川・中川の本風景であるエコトーンの再生を行った。

対象エリア：にぎわいゾーン

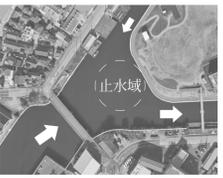
中川運河にぎわいゾーンにおける名古屋都市再生整備計画の目標

広域からも人々を呼び込む目的地として、都心に隣接する運河のさらなる水辺活用、うるおいや憩い、にぎわいをもたらす運河に向けて、水辺の回遊性確保及びにぎわい創出を図る。

広見憩いの杜

浄水施設を地下化し、地上部を市民へ開放する開かれた空間づくりを目指して中川運河沿いの道路を廃止し「水と緑の日常」をテーマに、桜並木やミスト噴水、改築前の施設の円形沈殿池の記憶を残す「広見憩いの杜」が整備された。

- 三つの水流が存在する中川運河の交差点 -
- ・浄水後に放流される北からの水流
- ・中川口から取り込まれる名古屋港、南からの水流
- ・堀川へ放流される東への水流



よって大き過ぎる止水域が生まれ、嫌気性バクテリアの働きも手が及ばず、毒素が溜まり水質悪化に直結していると考察する。
本設計では、水流を正しく流す配置、形態の決定を行った。

エコトーンを作る

エコトーン…水域から陸域、草地から森林域など、異なる環境が緩やかに移っていく移行帯

港勢拡大に伴い水上交通路の強化が急務となったことにより、蛇行していた河川は直線に矯正され、コンクリートの擁壁が立ち上がりエコトーンはすべて失われた。

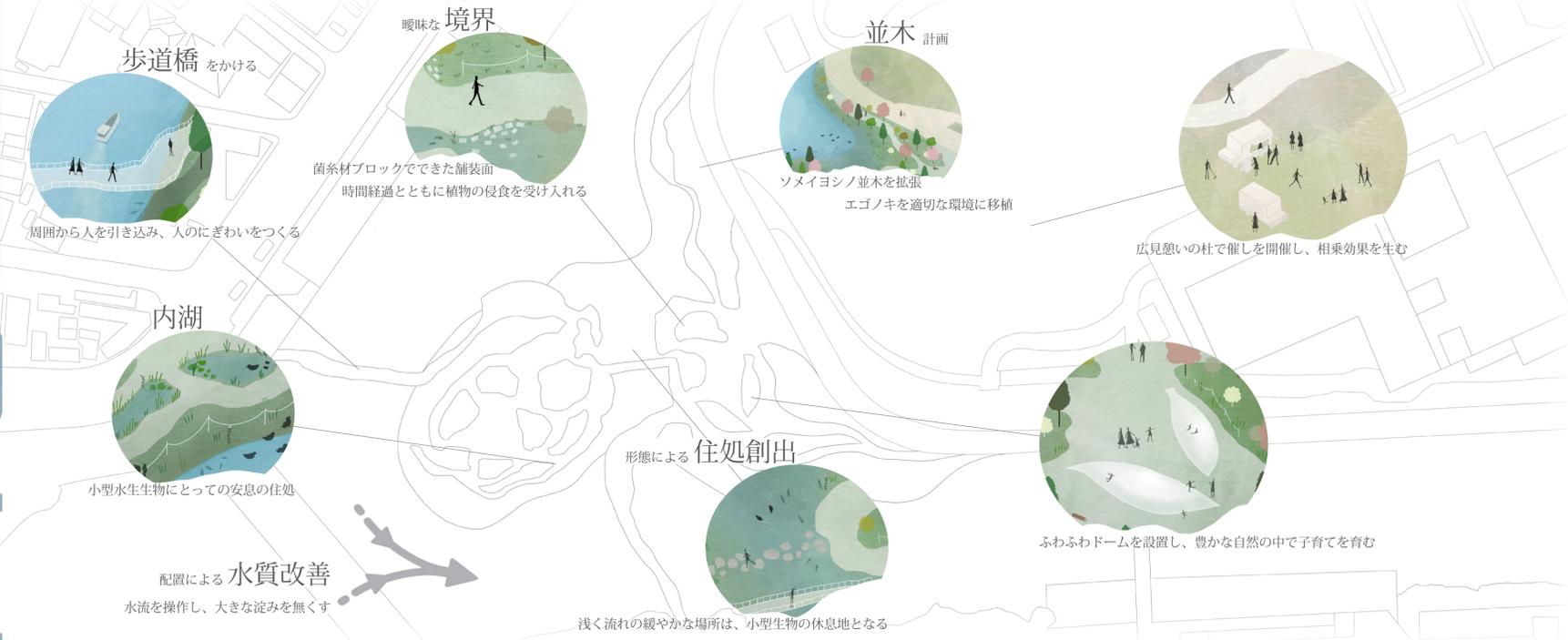
エコトーンは、名古屋の原風景であり、多様な生物が生息し、河川の水質の浄化作用の役割も担っていた。単なる人工環境としての緑地公園をつくるのではなく、露橋水処理センターに隣接されている「広見憩いの杜」を拡張する形式で、中川運河におけるエコトーンとして設計する。

堀川へ放流する水を、植物による水質浄化作用で、環境に優しく水質改善に大きく寄与することができる。



- エコトーンのもたらす効果 -
- ・繁殖のため陸に上がる、水中へ降りる必要にのつての緩やかな移行帯
- ・水辺の植物による水質浄化作用
- ・小型の水生生物、水辺の野鳥たちの安息地

生態系としての多様な“にぎわい” 中川運河内に新たに緑地公園を設計し、種を超えた多様なにぎわいの創出を計る。以下の9つの施策により実現する。



中川運河に適した 植栽計画

水中の沈水植物から陸上の高木まで、植生域をわけそれぞれの植栽を選定した。広見憩いの森から、ソメイヨシノやエゴノキを抽出し連続性を持たせた。その他、原則として、設計の段階で選定する種の分布域は、在来種とし選定しきらない未完の計画とする。ニッチを設けておくことで、時の経過による移入種を受け入れる体制を持ち移入種の定着後「新しい」生態系の完成となる。



- | | | | |
|---|--|---|---|
| 沈水植物：エビモ
マツモ
ホッソモ
セキショウモ | 抽水植物：マコモ
ヨシ
シロネ | 湿性植物：ミソソバ
イヌゴマ
カキツバタ
アゼスゲ
セリ
ミソハギ
カサスゲ
シロネ | 草木類：チガヤ
ツリガネニンジン
ワレモコウ
ヤブカンゾウ
ノシバ
スミレ
キキョウ
オミナエシ |
| 低木：モチツツジ
ガマズミ
カクレミノ
ヤブムラサキ
ムラサキシキブ
アセビ | 中木：クロガネモチ
ネズミモチ
カクレミノ
シロガモ
サカキ
ヤブニッケイ | 高木：ソメイヨシノ
エゴノキ
ハンノキ
アカメヤナギ | + 外的要因からの移入種 |